

メタル縮退に向けたメタルIP電話の 接続料算定方法について

KDDI株式会社

2025年12月24日

※本資料では敬称を省略しております

1. メタルIP電話固有設備の接続料算定方法について

論点

- メタル回線設備が縮退する見込みであることを踏まえ、引き続き、LRIC方式を接続料算定に適用すべきかどうか

当社の考え

- LRIC方式による接続料算定の廃止は、ビル&キープ方式の原則化とあわせて実施すべき。また、ビル&キープ方式の原則化及びLRIC方式による接続料算定の廃止は遅くとも2028年度までには実施すべき。

(理由)

- ビル&キープ方式が原則化された場合、LRIC方式から実際費用方式に見直しても接続事業者に与える影響は限定的になることから、事業者・行政コストの最小化のためにはLRIC方式による接続料算定の廃止が望ましいこと（なお、ビル&キープ方式が原則化されない場合、実際費用方式への見直しによる接続事業者への影響は小さくないため、運用プロセスの簡素化を行い事業者・行政コストは抑えつつも、LRIC方式による算定は原則継続すべき）
- 「IP網への移行後の音声接続料の在り方」答申(2024年6月)において、現行の接続料算定方法の適用は2028年3月までとされていること、また、2028年度からはメタルIP電話についてエリア単位での段階的なサービス移行が予定されており、大幅な接続料変動や予見可能性の確保が困難になることによる接続事業者への多大な影響が考えられることから、メタルIP電話の移行が本格化する2028年度までにビル&キープ方式の原則化を実施することが適切であると考えられること

2. 運用プロセスの簡素化について

論点

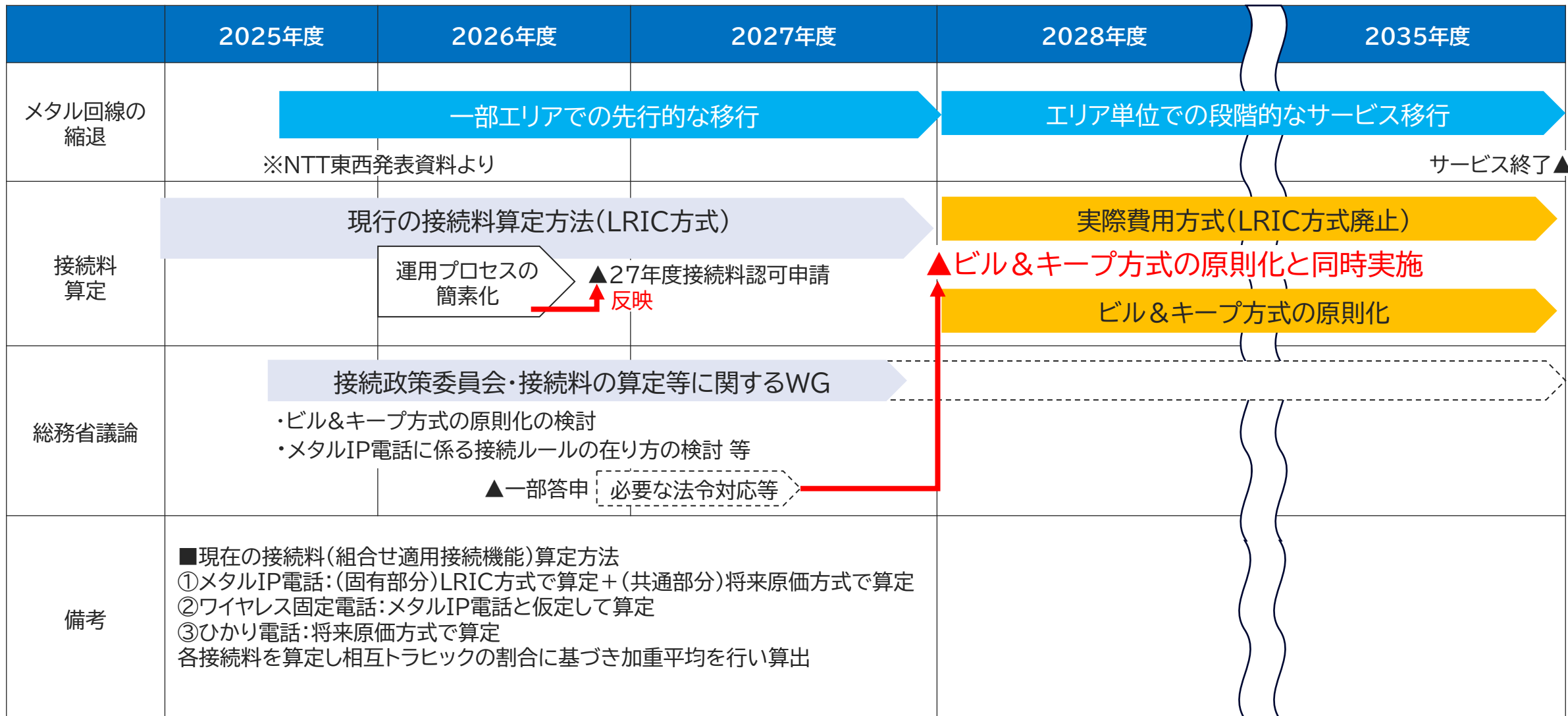
- LRIC方式を直ちに廃止しない場合、LRICモデルの運用プロセスの簡素化を図るべきかどうか

当社の考え

- ビル&キープ方式の原則化とあわせたLRIC方式による接続料算定の廃止までの期間においては、事業者・行政コストを低減する観点から、接続料に与える影響も踏まえながら、運用プロセスの簡素化を行うことが望ましい。
- 運用プロセスの簡素化については、「IP網への移行後の音声接続料の在り方」答申(2024年6月)の内容を踏まえて検討すべき。

例：大きな変動がない入力値や接続料原価に与える影響が限定的な入力値を固定化する など

(参考) メタルIP電話固有設備の接続料算定方法について



3. ワイヤレス固定電話の接続料について

論点

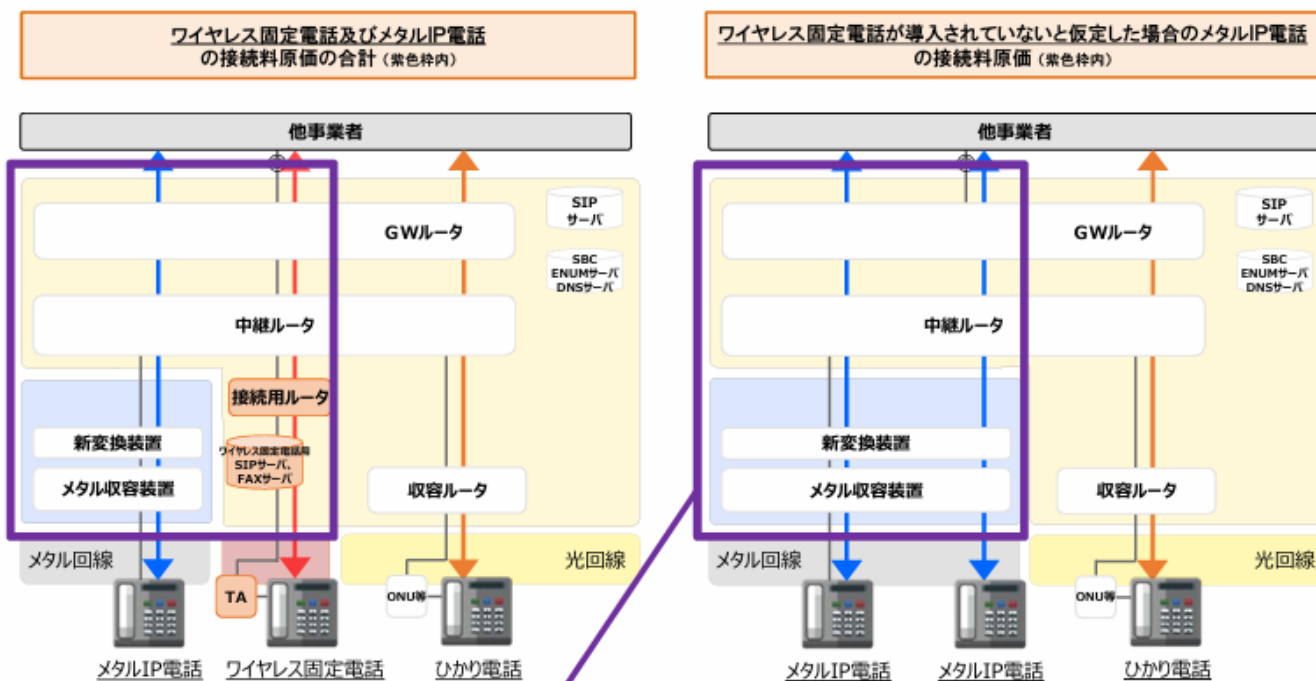
- その他、検討すべき事項(ワイヤレス固定電話接続料の扱いについて)

当社の考え

- ワイヤレス固定電話の接続料は、現状、次頁のとおり、メタルIP電話と見做して算定(メタルIP電話固有設備はLRIC方式)されているが、メタルIP電話固有設備の接続料算定についてLRIC方式を廃止する際には、ワイヤレス固定電話の接続料(実際費用方式)の適用方法の検討が必要。
- 「固定電話を巡る環境変化等を踏まえたユニバーサルサービス交付金制度等の在り方」答申(2022年9月)において、「ワイヤレス固定電話が導入された結果、ワイヤレス固定電話が導入されていないと仮定した場合と比べて、接続事業者の負担が増大することは適当ではない」とされていることを踏まえれば、ワイヤレス固定電話の接続料(実際費用方式)がメタルIP電話の接続料(実際費用方式)を下回ることが見込まれない限り、メタルIP電話の接続料と同額を設定すべきと考える。

(参考) ワイヤレス固定電話の接続料算定方法

- ワイヤレス固定電話の接続料は、ワイヤレス固定電話が導入された状況での接続料原価とワイヤレス固定電話が導入されていないと仮定した場合の接続料原価を比較し、前者が後者を上回る場合には、ワイヤレス固定電話が導入されていないと仮定して算定(「固定電話を巡る環境変化等を踏まえたユニバーサルサービス交付金制度等の在り方」答申(2022年9月))
- 現在の接続料算定期間においては、接続料原価の比較を省略し、メタルIP電話と見做して算定



接続料原価の比較を省略して、接続料原価を決定

出典: 「IP網への移行後の音声接続料の在り方」
 答申概要資料 (2024年6月)

「つなぐチカラ」を進化させ、
誰もが思いを実現できる社会をつくる。

KDDI VISION 2030

